

## 2021 年度前・後期 授業改善アンケート集計結果に対する意見

—法学部—

学部長 川 淳一

授業改善アンケートの結果から、なにをどのように読み取り分析して、自己の授業における課題を発見し、今後の授業改善につなげていくかは、個々の教員の判断に委ねられていることは言うまでもない。

このことを踏まえたうえで全体的な結果をみると、2020 年度後期と比較して、2021 年度前・後期のスコアの平均値は一つを除いて上昇していることを見て取ることができる。すなわち、全 13 項目のうち、(1) から (12) についてはスコアが向上し、スコアが下がったのは学生がする学習の時間だけであった。これを具体的に言うと、具体的に言うと、(1) 円滑に授業を受けることができた (4.25→4.44)、(2) この授業の内容を理解するために努力した (4.29→4.38)、(3) 教員は毎回の授業ごとに十分な指示を行っていた (4.20→4.37)、(4) 教員の指示は明確でわかりやすかった (4.14→4.30)、(5) 授業の課題は適量であった (4.09→4.25)、(6) この授業のレベルはあなたにとって適切であった (4.06→4.06)、(7) 教員は遠隔授業のツールを適切に使っていた (4.17→4.31)、(8) 教員との双方向のやりとりが十分にあった (3.95→4.16)、(9) シラバスと授業内容が一致していた (4.21→4.35)、(10) この分野への興味・関心が引き起こされた (4.03→4.13)、(11) この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった (4.12→4.25)、(12) 教員の授業資料は見やすかった (4.10→4.25)、(13) 1 回の授業にあたり、授業時間と事前・事後学習のために費やした時間を合わせた平均の時間はつぎのようである (2.58→2.51)。

今回のスコアの変遷から見て取れることは、教員、学生ともに遠隔授業に習熟し、2021 年度は 2020 年度に比べて適切な授業運営ができたということであろう。もとより本年度は原則対面授業に戻っているが、機材の効果的な使用方法等については、対面授業にも十分生かすことができると思われる。今年度のスコアを期待する所以である。

以上